

子犬のしつけについて

by Connie Cleveland
207 Greenpond Road
Fountain Inn, SC 29644
864/862-8626
www.dogtrainersworkshop.com
dtwcc@bellsouth.net



子犬の迎え方：最初のステップ

編集者注記：これは、子犬の成長における3つの重要な段階に分けられた、素晴らしい記事シリーズの第1回目です。その段階とは、生後7～9週、9週～3か月、3～5か月です。この記事シリーズは、GRCA（ゴールデン・レトリバー・クラブ・オブ・アメリカ）の会員だけでなく、ブリーダーがコピーして子犬の購入者に配布するのにも役立つことを、著者のコニーは願っています。この情報が役立つ場面では、自由にコピーして配布してください。ただし、その際は、記事のタイトル、著者名、出典を明確に記載することを忘れないでください。この記事のPDF版を電子的に受け取りたい場合は、GRNews@aol.com にメールでお問い合わせください。



新しい子犬を迎える準備をしているときほど、犬の飼い主にとって胸が高鳴る瞬間はないでしょう。無数に思える選択肢を慎重に検討した後、ようやく最も重要な決断のひとつにたどり着きます。
「どのようにトレーニングするか」です。

犬種は？性別は？どのブリーダーから？どの獣医に診てもらおう？どのフードを選ぶ？クレートを使うべきか否か？こうした数々の選択に少しでも役立つように、常識的な視点から考えてみましょう。まずは、成犬になったときにどのような振る舞いをしてほしいかをイメージすることから始めてください。

最も飼いやすく楽しい犬とは。

新しい子犬を迎えるというワクワク感と期待に満ちた特別な時間を活用し、一生を通じて共に暮らす喜びとなるパートナーを育てるための計画を立てましょう。

1. 呼ばれたら来る。
2. 指示された場所にとどまる。
3. リードを付けて上手に歩ける。
4. 人や家具には招かれたときだけ飛びつく。
5. 自分のおもちゃで遊び、飼い主の物には手を出さない。
6. 必要に応じて家族から離れて過ごすことができる。

よく考えてみてください。
もしこれらすべてがあなたの犬に当てはまるとしたら、満足ですか？
もし「はい」と答えたなら――

または、これらの項目のほとんどに「はい」と答えたのであれば、子犬を家に迎えたその日から、これらの目標を念頭に置いてトレーニングを始めましょう。

生後 7～9 週 - 幼児期

多くの場合、子犬を家に迎えるのは生後 7～9 週の間です。この時期の子犬はとても愛らしく、思わず目を奪われてしまいますが、その小さな子犬がまさに「幼児」であることを忘れないでください。

食 事

市販されているドッグフードの種類は非常に多く、選択肢の多さに圧倒されてしまうかもしれません。まずは、ブリーダーに子犬が普段食べているフードを尋ねてみるとよいでしょう。それが難しい場合は、子犬の犬種に合った栄養バランスと粒の大きさを持つ高品質なドライフードを選んでください。

良質なフードに投資すれば、通常、子犬に追加のサプリメントを与える必要はありません。ただし、これについては獣医師と相談するのが良いでしょう。

生後 7～9 週の子犬

この時期の子犬は、1日3回の食事で満足します。食事を決まった時間に与えることでトイレトレーニングがしやすくなるため、フードを与え、興味を失ってその場を離れたら片付けて次の食事の時間まで取っておきましょう。また、一部の食事をクレートの中で与えることを検討してもよいでしょう（詳細は「ケージトレーニング」を参照）。

子犬が適正な体重であるかを確認する方法を知ることが重要です。子犬は肋骨の上に脂肪を少し蓄えているので、肋骨を簡単に触れることができない場合は太りすぎの可能性あります。

一方で、肋骨の輪郭が見える場合、特に腰骨が目立つ場合は痩せすぎです。子犬の成長に伴い、与えるフードの量は数週間ごとに変わることを覚えておいてください。フードの量を計量する習慣をつけるとともに、子犬の体を観察し、肋骨を触って適切な調整ができるように心掛けましょう。

トイレトレーニング

子犬が新しい環境を探索することは大切であり、その様子を見るのは楽しいものです。しかし、子犬は頻繁にトイレに行く必要があるため、常に注意を払う必要があります（写真 1 参照）。犬は巣穴を持つ動物であり、本能的に自分の住む場所で排泄をしたくないと考えます。残念ながら、私たちが住む家は多くの場合広すぎるため、犬は家全体を自分の巣穴だと認識しません。

そのため、トイレトレーニングが完了していない犬、特に子犬は、自分がいる部屋にとどめておくことが重要です。もし子犬が部屋を離れると、それを「巣穴から出た」と認識し、その場所で排泄しても良いと考えてしまいます。子犬が家の中を探索する際には、必ず自分がいる部屋にとどめてください。例えば、寝室にいるなら子犬も一緒に寝室に閉じ込めます。キッチンに行く場合も、子犬を連れて行きましょう。ドアを閉めることができない場合は、ゲートを設置するか、10～15 フィート（約 3～4.5 メートル）のロープを使って部屋の中で行動を制限してください。

子犬はまだ自分で「トイレに行きたい」と伝えることができないため、外に出る必要があるサインを見逃さないように注意深く観察してください。そのサインは微妙な場合があります。例えば、遊んでいた場所から数歩離れたり、嗅ぎ回ったり、円を描くように歩き回ったりする行動です。時計を見て「そろそろトイレの時間だ」と判断するのは間違いです。子犬がトイレに行きたくするのは、経過時間ではなく活動の変化が原因です。子犬が活動を変えるたびに、必ず外に連れ出しましょう。たとえば、目を覚ましたら外に連れ出す、遊ぶのをやめたら外に連れ出す、食べ終わったら外に連れ出す、というように。事故が起こる前に外に連れて行くことが重要です。もし庭の中で子犬にトイレをさせたい特定の場所がある場合、まずはその場所まで子犬を抱えて連れて行き、そこに下ろしてください。この時、歩かせようとししないでください。この年齢では、その場所まで行く前に排泄してしまう可能性が高いからです。子犬が成長すれば、自分でその場所まで行けるようになります。

もし子犬があなたの目の前でトイレトレーニング中に失敗した場合は、不快感を表す声を上げ、すぐに外に連れて行きましょう（「ダメ」や「悪い子」で十分です）。その際、失敗した場所に子犬を引きずって行ったり、鼻を押し付けたりする必要はありません。

一方で、あなたが見ていない間に家の中で排泄してしまった場合、子犬を叱ることはまったく意味がありません。なぜなら、犬は過去の行動を記憶し、それに責任を感じることができないからです。失敗した場所に子犬を引っ張って行き、怒ったとしても、犬は「20分前にここでトイレをしたから飼い主が怒っている」とは考えません。その代わり、犬はその状況を心に記録し、「飼い主がいる、自分がある、そして汚れがある」という状況で叱られることを学びます。次回、床に汚れがあり、飼い主が近づいてくる音を聞いたら、犬は逃げるでしょう。

私たちは犬に人間のような理由付けや感情を当てはめてしまいがちです。飼い主がよく言うのは、「でも、うちの犬は悪いことをしたとわかってはいます。私から逃げたし、罪悪感のある顔をしていた。」というものです。しかし、犬は自分がその汚れに責任があると理解しているから逃げているのではありません。「自分、飼い主、汚れ」という状況が揃うと叱られると気づいているから逃げているのです。



写真 1: 子犬は探検が大好きで、常に目を離さないようにする必要があります。子犬を家に迎えた時、最初に周りを見て回らせてあげましょう。ただし、この時期の子犬は頻繁にトイレに行く必要があることを忘れないでください。

ケージトレーニング

ケージは、犬のトレーニングにおけるベビーベッドやプレイペンのようなものです。ケージは、犬が家の中で物を噛んだり、排泄してしまうのを防ぐのに役立ちます。また、ケージは犬が家の中で危険な物を口にすることを防ぎます。さらに、ケージは不安を感じている犬を落ち着かせたり、過剰に活動的な犬に一人でいるときに眠ることを教える役割も果たします。それに加え、ケージは旅行中に犬にとっての「家」として機能します。ケージは、子犬の一生を通じて犬を閉じ込めておくためのものではありません。これは、子供の一生を通じてプレイペンを使い続けることがないのと同じです。ケージは、子犬や若い犬がトイレトレーニングを終え、家の中や庭で自由に過ごせるようになるまでの間、安全な場所を提供するためのものです。

正しくケージを使用すれば、犬はケージを「自分専用の部屋」として認識するようになります。それは清潔で快適で安全な場所となり、犬を監視できないときに安心して置いておけます。ほとんどの犬はケージの中で排尿や排便をしないよう努めるため、トイレトレーニングにおいて非常に有用です。ケージにはプラスチック製や金属製などさまざまな種類があり、犬をケージに慣れさせる方法、設置場所、敷物、食べ物やおもちゃの有無などについても多くの意見があります。結局のところ、大切なのは「自分が快適に感じる方法を選ぶこと」です。



写真 2: 最初の数回の食事の間は、ケージのドアを開けておき、子犬が自由に入ることができるようにしましょう。このケージは子犬のサイズに合ったものです。

小さな子犬には大きなケージは必要ないため、ケージを固定した場所に置く必要はありません。多くの人が、新生児を寝かせて泣き叫ぶ声を聞くのを嫌がるように、新しい子犬がケージの中で遠吠えする声を聞くのもつらいものです。特に、子犬が眠る準備ができる前にケージに閉じ込められた場合、その哀れな鳴き声ほど切ない音はありません。

ケージに慣れさせるためには、ケージをキッチンやリビングルームなど、人がいるエリアに置いてください。自分が「快適そう」と感じる場所に置くことで良いでしょう。子犬が暑がりの場合、金属製のケージの底が涼しいと感ずることがあるため、何も敷かない方が良いでしょう。一方で、古いタオルや毛布を敷いた方が快適そうに見えるなら、それを敷いて寝具として使用してください。

ケージの中に子犬のおもちゃや少量のおやつを入れ、ドアを開けた状態で自由に出入りさせましょう。食事の時には、ケージの中で子犬にご飯を与えてください。若い子犬は食べるのが遅いことがあるため、最初の数回はドアを開けたままにして、自由に出入りさせても構いません（写真 2 参照）。子犬の食欲が改善したら、ドアを閉じた状態でご飯を与え、食べ終わったらすぐに外に出してあげてください。（食べ物のこぼれた部分はすぐに掃除しましょう。ケージを清潔に保つことが非常に重要です！）

子犬をケージの中に長時間入れておく必要はありませんが、食事をケージの中で取ることに慣れるようになります。

子犬をケージに入れる際のコツは、疲れて眠る準備ができたときにケージに入れることです。最初の数晩はどうしても不安を感じることがあります。そのため、子犬を外に連れ出して遊び、眠たそうになったらケージにそっと入れて電気を消しましょう。ケージを寝室以外の部屋に置く予定だった場合、子犬が泣くことがあるかもしれません。そのときは、その声を我慢できるかどうかを判断する必要があります。ただし、ケージをベッドのそばに置き、電気を消してケージの側面や扉から指を差し入れて子犬を安心させながら一緒に眠りにつくのも良い方法です。

夜中に子犬があなたを起こした場合は、必ず起きて外に連れて行きましょう。これは、飼い主がケージを清潔に保つ手助けをしてくれると子犬に学ばせるために重要です。ただし、遊んだり食事を与えたりする必要はありません。単にトイレを済ませさせてから、ケージに戻してください。

子犬をケージに戻した後にぐずることがあります。そのとき、どう対応するかを決めなければなりません。もし子犬をベッドに連れて行ってしまえば、「飼い主を起こすとご褒美がもらえる」、つまりその後の夜を飼い主のベッドで過ごせると学んでしまいます。可能であれば、無視するのが良いでしょう。ただし、もし心が弱く、泣き声を無視できない場合は、ケージをベッドのそばに置き、安心させられるようにするのが最善の選択かもしれません。

子犬と一緒に寝たり、昼寝をさせたりしてもよいのでしょうか？もちろんです。ただし、それと同時に、ケージで眠る習慣も身につけさせる必要があります。全体的な目標は、必要なときにおとなしく閉じ込められることを教えることです。子犬が成長すれば、ケージを使わずに寝室に閉じ込めたり、庭に出したりするだけで済むようになるかもしれません。今の時期に、不満を言わずに閉じ込められることを学ばせることが大切です。

子犬が 7～9 週齢の間は、夜間はケージで寝かせ、食事もケージの中で与え、留守にするときもケージに入れるのが良いでしょう。この時期に「ケージの時間」が多いと感ずるかもしれませんが、これは短期間だけのことであり、子犬がもう少し成長するまでのことです。さらに、この年齢の子犬は多くの昼寝をします。そのため、ケージにいる間に昼寝をすることを自然に覚えるでしょう。子犬がケージに慣れたら、どれくらいの時間ケージの中にいさせてもよいのでしょうか？理想的には、子犬が昼寝から目覚めて泣いたときに、すぐに外に連れて行ける状態が良いです。ただし、この質問への答えは、飼い主の生活スタイルにもよります。誰もが子犬を一日中放置するのは避けたいと思いますが、フルタイムで働いている場合、それを避けられないこともあるでしょう。その場合、大きなケージを使用するのがよいかもしれません。ケージの前半分には寝具を敷き、後半分には新聞紙を敷いておけば、子犬がどうしても排泄する必要があるときに後半分をトイレとして使うことができます。これは、子犬を家の小さな部屋に放しておいて、家具や電気コードをかじらせてしまうリスクを避けるためにも、より安全な選択肢です（写真 3 参照）。



写真 3: 好奇心旺盛な子犬は、一人で放っておかれるとトラブルを引き起こします。



写真 4: この2匹の同腹子犬は、遊びの中で格闘することで、早期の子犬社会化を学んでいます。



写真 5: 子犬に噛まれたときは、痛みを表す声を出し、軽く揺さぶってください。

大学卒業後、フルタイムで働きながら初めて子犬を育てるのは、私にとって非常にストレスの多い経験でした。幸運なことに、秋で涼しい気候だったため、最初の数週間は、日中ずっと彼女を置き去りにしていることに罪悪感を感じ、ケージを車の中に置き、朝の休憩時間や昼休みに駐車場で彼女を外に出して、数分間遊ぶことにしました。日中に数回様子を見に行けると思っただけで、気持ちが楽になりました。

若い子犬が夜間に眠れるようになると、日中も同じ時間だけ清潔を保てるようになる可能性が高いです。子犬の自制心には個体差がありますが、ほとんどの子犬は生後 3 か月までには夜通し眠れるようになります。成長した子犬の自制心は通常十分に発達しているため、ケージの中で 8~9 時間留め置かれることも可能です。ただし、長時間の閉じ込めは、他の精神的および身体的な問題を引き起こす可能性があることを覚えておいてください。

ケージを使うかどうかにかかわらず、必要な仲間意識を一貫して否定されている犬は、孤独なペットになってしまいます。そして、犬は不安や退屈、ストレスを破壊的な方法で表現する可能性があります。

噛むこと

小さな子犬は、兄弟犬と遊ぶ中で噛むことを学んで家にやってきます(写真 4 参照)。そのため、子犬は必ずあなたを噛もうとします。これは避けられないことであり、子犬が悪い子や攻撃的であるという意味ではありません。ただ単に、兄弟犬と遊んでいたのと同じ方法であなたと遊びたいだけなのです。

しかし、その鋭い歯は痛みを伴うため、できるだけ早く噛むことをやめさせたいものです。

子犬があなたを噛んだときは、痛みを表す声を上げ、軽く揺さぶってください。これは、兄弟犬が強く噛まれたときに行う反応を模倣したものです。言い換えれば、あなたが噛み返しているのと同じですが、口を使う必要はありません。どこをつかんでも構いません。子犬は皮膚がたるんでいるため、どこでもつかむことができます。そして、あなたが痛い思いをしたことを知らせてください。子犬は後ずさりして、あなたの反応に驚いたような表情をするはずですが、この矯正は短時間で済ませ、その後はまた噛まれる前のように遊びを続けてください(写真 5 参照)。

小さな子どもがいて、子犬が子どもを傷つけるのではないかと心配な場合は、子どもにおもちゃを使って子犬と遊ぶように促しましょう。そうすることで、子犬の注意を子どもの服や手からそらすことができます。

また、小さな子犬が靴やテーブルの脚、目の高さにあるあらゆるものを噛もうとするのも避けられません。子犬がそれらを噛んだときは、単純にその物を取り除くか、子犬を移動させて自分のためのおもちゃを与えてください。この時期に叱るのは時間の無駄です。子犬はまだ幼すぎて、叱られた理由を理解したり気にしたりすることができません。

新しい子犬を他の犬に紹介する方法

すでに犬を飼っている場合、子犬を先住犬に急いで紹介する必要はありません。このプロセスは、数週間から数か月かけて徐々に進めても問題ありません。どの犬種であれ、生後 7~9 週間の子犬は非常に小さく、たとえ遊びの中であっても、先住犬に傷つけられる可能性があります。また、先住犬が子犬をしつけようとすると、子犬が深刻なケガを負う可能性もあります。先住犬と子犬がベビーゲートやクレート越しに互いに様子をうかがえるようにし、徐々に慣れさせましょう。お互いに馴染むまでの時間はたっぷりあります。最初の数日で慣れさせる必要はありません(写真 6)。

ワクチン接種と動物病院への訪問

子犬には、生後 6 週間から始まり、生後 4 か月で最初の狂犬病ワクチンを受けるまで続く一連の「子犬用ワクチン」が必要です。たとえすでに最初のワクチンを受けていたとしても、子犬を家に迎えたらすぐに動物病院に連絡し、初回の診察をいつ受ければよいか確認してください。また、必要な追加接種のスケジュールを守るようにしましょう。

これらのガイドラインは、新しい子犬を迎えてから最初の 2 週間のためのものです。次の記事では、生後 9~12 週間という次の発育段階についての情報をお届けします。



写真 6: ベビーゲートを使って新しい子犬を先住犬に紹介しましょう。どの犬種であれ、生後 7~9 週間の子犬は非常に小さく、たとえ遊びの中であっても先住犬に傷つけられる可能性があります。

子犬のしつけについて

by Connie Cleveland
207 Greenpond Road
Fountain Inn, SC 29644
864/862-8626
www.dogtrainersworkshop.com
dtwcc@bellsouth.net



新しい子犬の育て方 パート II: 生後 9 週間から 3 か月 – 「幼児期」

編集者注記: これは、子犬の成長における 3 つの重要な段階に分けられた、素晴らしい記事シリーズの第 1 回目です。その段階とは、生後 7~9 週、9 週~3 か月、3~5 か月です。この記事シリーズは、GRCA (ゴールデン・レトリバー・クラブ・オブ・アメリカ) の会員だけでなく、ブリーダーがコピーして子犬の購入者に配布するのにも役立つことを、著者のコニーは願っています。この情報が役立つ場面では、自由にコピーして配布してください。ただし、その際は、記事のタイトル、著者名、出典を明確に記載することを忘れないでください。この記事の PDF 版を電子的に受け取りたい場合は、GRNews@aol.com にメールでお問い合わせください。

「幼児期」

子犬が 9 週間に近づくと、子犬はもっと起きている時間が長くなり、体がより協調的になり、視力も良くなるため、ますます好奇心旺盛で大胆、勇敢になっていきます。これまであなたの後をついてきた小さな子犬は、少し成長したこの時期になると、走り回り、聞こえた音や見たものを確かめなくなるでしょう。もしあなたに幼児がいる場合、家の中を「幼児向け」に安全に整えるように、好奇心旺盛な子犬がいる家も「子犬向け」に安全対策をする必要があります。靴を高い場所に置き、ゴミ箱はキャビネットの中にしまい、子どものおもちゃは片付けておきましょう。

あなたの目標は、成犬になった犬が次のような状態になることです:

1. 呼んだときに戻ってくる
2. 指示された場所で静かに待つ
3. リードをつけて上手に歩く
4. 人や家具に飛び乗るのは招かれた時だけ
5. 自分のおもちゃで遊び、あなたの物には手を出さない
6. 必要な時には家族から離れて閉じ込められることができる

リードをつけて歩くことやその他のしつけ命令

この年齢は、あなたの子犬が軽いリードや長めのロープを引きずりながら歩き始めるのに最適な時期です。この段階で飼い主が犯しがちな最大の誤りは、まだ非常に若い犬であることを認識していないことです。子犬はまだ、外に行きたいときに知らせる責任を持っていないし、どの物が自分の遊び道具で、どれが飼い主のもので無視すべきものかも理解していません。犬が目を離せないときは、引き続きクレートを使って閉じ込めてください。あなたが犬と一緒にいるときは、必ずあなたがいる部屋に犬を入れておきましょう。

子犬は家の中でのしつけがまだ信頼できる状態ではなく、活動が変わるたびに外に出す必要があります。さらに、7~9 週齢の時期以上に、すべての物が彼の口に入るようになります。

すべての物が彼の口に入るようになるので、目を離さずに監視できる場所に置いておくべき理由の一つです。幸いなことに、子犬は従うべき命令を教え始めるには十分な年齢に達しています。ですので、しつけを始めるのが楽しみです!



写真 1: 庭を探索するのをリードで付き添っています。



写真 2:おやつのために座っています。おやつが少し高すぎて、前足が地面から浮き、私からおやつを取ろうとしています。

「おすわり」を教える方法

「おすわり」は、子犬に教えやすいコマンドの一つです。おやつを子犬の鼻の前に持ってきってから、ゆっくりとその頭を上へ傾け、尾の方に向けて移動させます。そうすると、自然と座る姿勢になります。このとき「おすわり」と声をかけ、褒めてからおやつを与えましょう。おやつを高く上げすぎると、子犬が飛びついてしまうことがあります。おやつは、子犬が届く高さにし、飛び上がらないように気をつけてください（写真 2）。

「ふせ」を教える方法

子犬が「おすわり」をマスターしたら、「ふせ」を教えてみましょう。まず「おすわり」の状態から始めます。おやつを子犬の鼻の前に持ち、ゆっくりと地面に近づけます。子犬が頭を下げるにつれて、おやつを前方に移動させ、前脚を伸ばして「ふせ」の姿勢になるよう誘導します。このとき、自由な手で子犬の背中を押さえ、立ち上がっておやつに向かおうとするのを防ぐ必要があるかもしれませんが、子犬を押し付けて「ふせ」の姿勢にさせるのは避けましょう。子犬が「ふせ」の姿勢になったら、「ふせ」と声をかけ、褒めてからおやつを与えます（写真 3）。

子犬に「おいで」を教えるには、まず名前を呼び、「おいで」と言いながら子犬から離れるように走ってみてください。ほとんどの子犬は追いかけてこのような遊びが大好きで、あなたを追いかけてくるでしょう。子犬が追いついたら、おやつをあげて褒めてあげてください。この遊びを長いリードをつけた状態で行くと、子犬が他のことに気を取られたときに便利です。その場合は、名前を呼んで「おいで」と言い、リードを軽く引いて注意を引いたあとに、また走り始めてください（写真 4）。

もし子犬をクレートで食事させているなら、食事を準備している間に子犬がクレートの方へ先に走っていくことがあるかもしれません。その際に「ハウス」と声をかけながら子犬がクレートに入るようにすると、このコマンドに慣れさせることができます。

この時期、大型犬の子犬は物に飛び乗れるくらいの大きさになり始めます。もし椅子に座っているときに子犬が飛び乗ってきたら、「降りて」と言いながら、子犬の後ろ足に軽く足を乗せてみてください。子犬が足が「捕まった」と感じると、飛び降りるでしょう。そのときに褒めて、すべての足が地面についていることを良しとして撫でてあげてください（写真 5、6）。

この時期は、軽いリードや長めのライン（約 10～15 フィート）を家の中や庭、あるいは子犬があなたから逃げる可能性がある状況で引きずらせ始めるのに最適な時期です。まず、これによって子犬はリードに慣れることができますし、もし子犬が逃げ出そうとした場合でも、あなたが捕まえる手段を得ることができます。引きずっているリードやラインを拾い上げ、子犬の後をついて行ってください。これにより、子犬はあなたがリードを持つことに慣れ、さらに二人が一緒に動くという感覚にも慣れることができます（写真 1）。この段階では、子犬があなたの行きたい方向に行くように無理にさせる必要はありません。ほとんどの犬種の子犬はまだ小さいので、あなたが望む方向に行くのを嫌がる場合には、抱き上げて運ぶことができます。この年齢では、気軽にそうして構いません。子犬に簡単なコマンドに反応する訓練を始めるには、子犬が喜ぶことに働きかける必要があります。ほとんどの子犬は少量の食べ物で強く動機づけられるため、この時期はポケットにご褒美をたくさん入れて、あなたが望む行動をしたときに与えるのが効果的です。柔らかく、短時間で噛まずに飲み込めるおやつは、トレーニングを最もスムーズに進める助けになります。もし子犬が食べ物にこだわりがあるようなら、チーズや肉の薄片を試してみてください。おやつを選択に不安がある場合は、獣医師に相談してください。

ほとんどの人は、子犬に与えるおやつを必要以上に大きくしてしまいます。できるだけ小さく割れるおやつを見つけ、子犬をすぐに満腹にしないようにしましょう。



写真 3:おやつのために「伏せ」を覚えます。



写真 4:一緒にロープを使って「おいで」のコマンドを練習しています。犬が私のところに来るとき、犬から離れて移動することで、素早く来させるようにします。

レトリーブ（物を持ってくる遊び）

犬がレトリーブ（物を持ってくる遊び）を楽しんでくれると、とても楽しいものです。この遊びは、良い運動になるだけでなく、エネルギーが豊富な子犬の体力を消耗させるのにも最適です。まずは、同じおもちゃを2つ用意しましょう。

廊下に向かっておもちゃを投げたり、ドアのところに立って部屋の中におもちゃを投げ入れたりします。子犬がその物を追いかけて、それを持って廊下に戻ってきたり、部屋から出てきたりすることを期待します。子犬があなたの近くを通り過ぎるときに、その子犬を抱き上げてください。

ただし、物を急いで取ろうとしないように気をつけてください。急いでおもちゃを取ろうとすると、子犬はすぐにあなたの手の届かないところに留まることを覚えてしまいます。しかし、子犬を抱き上げて撫でたり褒めたりしながら、あなたが持っているもう一方のおもちゃに興味を持たせることで、子犬は喜んであなたの元に戻ってくるようになります。子犬は「自分の戦利品」を取られる心配をしなくなるためです。

さらに、子犬は、あなたが別のおもちゃを投げることを期待して、持っていた物を自然に放すことを学ぶでしょう（写真 9、10）。

ボールを投げる誘惑に抵抗すること

あなたの子犬にボールを投げることを避けてください。転がるボールは、追いつけないと思う子犬にとってはやる気をなくさせる原因になります。また、ボールを三回または四回以上投げる誘惑にも抵抗してください。子犬が疲れるまでゲームを続けることは、最も早く子犬が興味を失い、ゲームに対して無関心になる原因となります。

ゲームを庭で行うとき庭でゲームをする場合、子犬がロープを引きずりながらゲームをする方が有益かもしれません。子犬が物を追いかける間に、あなたはそのロープの端を持ち、そこから子犬を呼び、走りながら引き寄せることで、子犬が戻ってくることに興味を持つようにします。

子どもがいる場合

子どもたちが走って遊んでいると、子犬は彼らを追いかけて、ジャンプしてくることを予期すべきです。子犬は兄弟犬と「追いかけてっこ」をして遊んでいたもので、家の中にそのゲームを知っている誰かがいることにとても喜びます！

私が12週齢の子犬を飼っていたとき、友達が5歳の娘と一緒に訪ねてきました。私はその女の子に子犬に「おすわり」や「ふせ」を教える方法を見せ、引っ張りっこ遊びをするよう勧めました。しかし、彼女が家の中を移動しようとするたびに、子犬は彼女の後ろを追いかけて、飛びついて足を噛もうとしました。そこで私はその子に水鉄砲を渡し、引き金を引けば水流が出るように設定しました。そして、子犬と一緒に庭に出て、彼女に「子犬を追いかけて、もし子犬が彼女に触れたら、『オフ』と言って水をかけるように」と指示しました。すぐに子犬は彼女を追いかけて、走りながらも、触れるほど近づくことはありませんでした。訪問の残りの時間はとても平和で、彼女は「おすわり」「ふせ」「オフ」のコマンドを練習し続けました。

教育的な遊び：引っ張りっこ（Tug-o-War）

子犬と引っ張りっこをすることの危険性について、多くのことが書かれています。その多くは事実ではありません。引っ張りっこをすることの唯一のネガティブな副作用は、常に子犬に勝たせると、物に対して執着する犬を作り出してしまう可能性があることです。反対に、引っ張りっこは「放して」というコマンドを教える素晴らしい機会を提供してくれます。

遊びながら引っ張り合いをした後、一旦引っ張るのをやめて、子犬に「放して」と指示してください。もし子犬が放さない場合は、子犬の顔に息を吹きかけてみてください。ほとんどの子犬は物を吐き出して、あなたから後ずさりするでしょう。もし息を吹きかけても物を吐き出さない場合は、空いている手で子犬の前足を軽く握ってみてください。足が「捕まった」と感じると、何が起きているのかを確認するために口を開けるでしょう。その瞬間に物を放すことが期待できます（写真 7、8）。

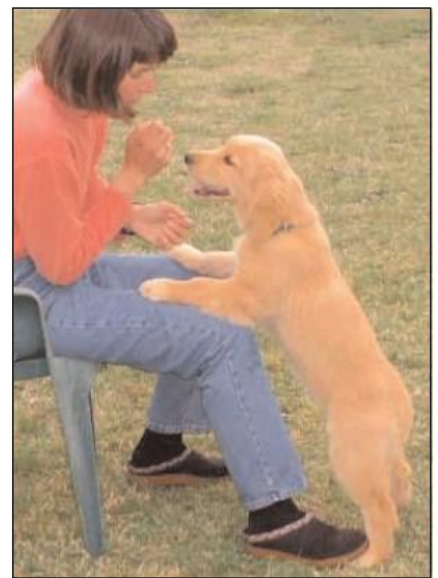


写真 5:犬が飛び乗ってきたので、「オフ」と言いながら、優しく犬の後ろ足に足を置いています。



写真 6:足に圧力を感じたので、四本の足をすべて地面に戻しました！

不必要な物を拾う

これは避けられません。子犬はあなたが触れてほしくない物を拾い始めます。この年齢では、二つの選択肢があります。ひとつは、子犬が自分のものではない物を触るたびに「ダメ」と言って注意を払う方法です。しかし、これは飼い主と子犬双方にとって非常にイライラすることであり、さらに子犬が「禁止された物を取って走ると、飼い主が追いかけてくる」ということを学んでしまうこともあります。これが子犬にとっては楽しいゲームとなり、飼い主にとっては非常に面倒です。

もうひとつの選択肢は、子犬が不必要な物を拾うことに無関心を装い、冷静に呼び寄せる方法です。もしあなたが子犬から走り去れば、子犬は追いかけてくる可能性が高いです。物を落としながらも、追いかけてくることがあるかもしれません。あなたはその子犬が来たことを褒め、拾った物をおもちゃと交換してあげることができます。この方法では、子犬が物を拾うことを止めるわけではないかもしれませんが、少なくとも子犬はあなたのところに物を持ってくるようになり、あなたが追いかけたり、物を取ったりしないことで、興味を失うかもしれません。物を拾うことが遊びや噛むためのおもちゃにはならないと学ぶことになります。



写真 7: 引っ張り合いのゲームを楽しんでいますが、「ドロップ」と言ってもおもちゃを離さないのので、犬の前足を手に取ります。



写真 8: 足を押し「ドロップ」の合図で、口からおもちゃを離すように促すように褒めます！



写真 9: おもちゃを持って喜んで私のところに戻ってきます…

子犬を年上の犬に紹介する

この年齢と大きさでは、飼っている小型犬や猫に子犬を紹介することが重要です。これは、まだ子犬が小さいうちに、年上のペットが子犬に対して尊重を教える良い時期です。しかし、大きな年上の犬には慎重で保護的であるべきです。子犬はまだ小さいため、大きな犬が遊びの中でうっかり傷つけたり、しつけのために子犬を叱ったりすることがあります。頭蓋骨の骨折や目の損傷は、年上の大きな犬と小さな子犬と一緒に遊ばせるリスクを冒す価値はありません。もし年上の犬が好奇心を持ち、寛容であれば、子犬をリードで繋いで一緒にいることを考えても良いでしょう。年上の犬が唸ったり、子犬に「もう十分だ」と警告した場合、子犬が警告を無視した場合に備えて、すぐに子犬を引き離せるようにすることが大切です。

子犬のグルーミング

子犬がグルーミングに慣れるようにしましょう。子犬がブラシをかけられている間、じっとしていることを教えるのは、テーブルの上に置くと簡単です。グルーミング用のテーブルがない場合は、ピクニックテーブルの上に乗せるか、洗濯機や乾燥機の上にタオルや滑り止めの素材を敷いて置きましょう。高い位置に置くことで、子犬は少し怖がることもあり、その結果、じっとしていることに同意しやすくなります！片手で子犬の首輪を持ちながら、もう片方の手でブラシをかけて練習しましょう。重要なのは、子犬がじっとしていることですので、全身をしっかりブラシすることよりも、短時間で済ませることが大切です。テーブルの上で、足を1本ずつ持ち上げて爪を確認したり、耳を見せることに慣れさせましょう。もし子犬をお風呂に入れることを決めた場合、リードと首輪をつけたままにしておくと、子犬をじっとさせることができます。じっとしていることの方が、完璧なお風呂よりも重要です。初めての試みでは、リンスをしてタオルで乾かすだけになるかもしれませんが、それで構いません。何度か試すうちに、子犬はそのルーチンに慣れ、協力的になっていきます。

子犬は、3ヶ月になり、すでに最初に挙げた6つの目標を達成するための習慣を身につけ始めています。子犬が学んでいることにワクワクしていることでしょうが、まだリラックスする時ではありません。これから少し厳しい数ヶ月が続きます。まだ若い子犬であることを忘れずに、素晴らしいスタートを切ったことを自信にして頑張りましょう！

写真撮影に協力してくれたマーティとジャニーン・フィオリトに感謝します。



写真 10: 急いでおもちゃを取ろうとしないことを犬は知っているのので、戻ってきておもちゃを渡してくれます。その時、犬を撫でて、来てくれたことを褒めます。再び投げる準備ができたなら、同じおもちゃをポケットから取り出し、犬をからかうことで、自分が持っているおもちゃを喜んで渡してくれるようになります。

子犬のしつけについて

by Connie Cleveland
207 Greenpond Road
Fountain Inn, SC 29644
864/862-8626
www.dogtrainersworkshop.com
dtwcc@bellsouth.net



新しい子犬の育て方 パート III: 3～5 ヶ月 — 「幼稚園」

編集者注記: これは、子犬の成長における3つの重要な段階に分けられた、素晴らしい記事シリーズの第1回目です。その段階とは、生後7～9週、9週～3か月、3～5か月です。この記事シリーズは、GRCA（ゴールデン・レトリバー・クラブ・オブ・アメリカ）の会員だけでなく、ブリーダーがコピーして子犬の購入者に配布するのにも役立つことを、著者のコニーは願っています。この情報が役立つ場面では、自由にコピーして配布してください。ただし、その際は、記事のタイトル、著者名、出典を明確に記載することを忘れないでください。この記事のPDF版を電子的に受け取りたい場合は、GRNews@aol.com にメールでお問い合わせください。

ゴールデンレトリバーの子犬（3～5 ヶ月齢）

この時期のゴールデンレトリバーの子犬は、体格が大きくなり、人を押し倒したり、大切なものを噛んでしまうことが可能になる一方で、そうしてはいけないことを理解するにはまだ幼すぎます。

最近、5ヶ月齢のワイマラナーの子犬を連れて若い男性が相談に来ました。

「この子、全然言うことを聞かないんです。僕を見ると興奮しすぎて、リードをつけることさえできません。『ダメ』と言っても無視するし、まるで取り憑かれたように走り回ります。この子、バカなんですか？」と彼は尋ねました。私は答えました。「いいえ、全く普通の犬、全く普通の犬のように聞こえますよ。」この時期は、トレーニングできる行動と、管理すべき行動のバランスを取ることを学ぶ段階です。

子犬にリードを使って歩くこと、呼ばれたら来ること、指定した場所にとどまることを引き続き教えますが、まだ子犬であることを理解する必要があります。そのため、多くの失敗をするでしょう。

例えば、長時間家を空けた後に帰宅したときや、来客があったとき、あるいは子犬がエネルギーに満ち溢れて自制が効かないときなど、彼らの興奮をただ管理する必要があります。こういった状況では、まだ子犬には自己制御する力が十分備わっていないからです。

リードを使って良い行動を学ぶ

あなたの目標は、子犬にリードが彼を抑制するためのものではなく、安全を守るためのものと学ばせることです。リードがたるんだ状態で立ち、あなたが話しかけたりリードを引いたりすると注意を向ける子犬に育てたいのです。今が、子犬がこれを学ぶ準備ができた年齢です。

子犬と一緒に立ち、リードを持ちます。このとき、子犬が静かにあなたのそばに立てる程度の長さにリードを調整し、リードが絡まないようにします（写真1参照）。リードの長さを半径とした円があなたの周りがあると想像してください。

子犬がその円の外に出ようと引っ張ったら、リードを素早くあなたの方に引きまします。子犬は驚いたようにこちらを振り向くかもしれません。それでも振り向かない場合は、手を伸ばして子犬を軽く突いてください（写真2参照）。他の子犬なら、注意を引くために軽く噛んだり、足で触れたりするでしょう。それを真似しているだけです。子犬があなたに注意を向けたら、褒めてご褒美をあげてください。

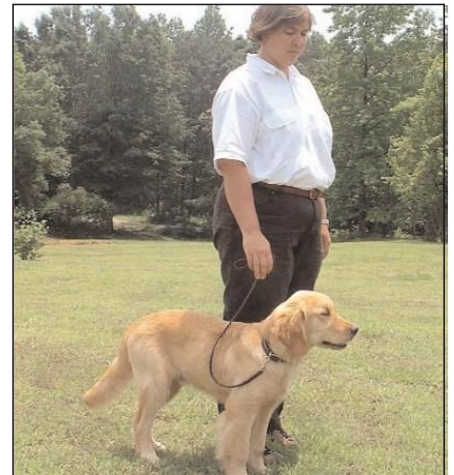


写真 1: リードを適切な長さに保ち、静かに立てる余裕を与えつつ、足元で絡まらないようにしています。



写真 2:犬はリードを引っ張っており、リードを引くだけでは彼の注意を引くことができないため、手を伸ばして軽く突き、犬の注意を引いています。



写真 3:リードの端まで走る犬に対して、素早くリードを引いています。

「おいで」を教える：初歩

子犬を 15～20 フィート（約 4.5～6 メートル）のリードやロープで庭に連れ出します。子犬が離れて行ったら、名前を呼び、「おいで」と指示します。子犬が来ない場合はリードを引き、子犬が追いつくまで後退します（写真 4）。子犬に手を伸ばすのは避けてください。そうすると、近づいてきた後に飛び跳ねて逃げるようになります。子犬を完全に引き寄せるために、膝をつく必要がある場合もあります。

必ず子犬が興味を引かれるものを見つけ、それに向かって走る場面が訪れます。その場合、ロープの端に到達する前に名前を呼び、「おいで」と言います。注意を引ければ子犬はこちらを向き、首輪の引っ張り避けられます。しかし、注意が向かない場合はロープの端で首輪が引っ張られます。この際、子犬を励ましてこちらに戻ってくるように促します。

そのうち、他の人や犬、おもちゃに向かって歩く練習ができるようになります。子犬は、走り去るとリードの引っ張りという否定的な結果があることを理解し、近くにいることを選ぶようになります。これがリードなしでの制御を目指す最初のステップです。リードのプレッシャーがなくても近くに留まることを学んだ子犬は、最終的にはリードなしでも飼い主の近くにいることを覚えます。この目標を達成するにはまだ数ヶ月かかりますが、正しい方向に進んでいます（写真 5）。

「待て」を学ぶ

子犬の飼い主は、子犬に「待て」を教えたくて仕方がありません。しかし、座ったり伏せたりした状態で一定時間そのままであることを教えるのは、非常にイライラする作業になりがちです。そこで、子犬にベッドの上で待つことを教える方が簡単です。この方法では、子犬は立つ、座る、伏せるなどの自由があり、守らせるべき唯一のルールはベッドのエリアから離れないことです。

「ブレイス」を教える

まず、ベッドやプラットフォームを選びます。子犬にとって縁がはっきりしている場所の方が学びやすいです。床から数インチ高くなっている場所や、縁が盛り上がっている場所を選ぶと良いでしょう。そうすることで、犬がその場所に乘ったとき、またはその場所から降りたときが明確に分かるからです。

犬に「ブレイス」と指示し、リードを使ってその場所に誘導します。この際、犬が立っていても座っていても、伏せていても構いません。したがって、他の指示を与える必要はありません。子犬から少し離れ、写真 6 のようにリードを持ちながら立ちます。子犬がその場所から降りたら、すぐにその方向へ進み、「ダメ」「ノー」と言って間違いを伝えます。その後、「ブレイス」と繰り返し言いながら、リードを使ってベッドに戻します（写真 7）。

覚えておいてください、子犬は問題解決が得意です。一方向からベッドを降りられないようにしても、別の方向から降りようとするかもしれません。ベッドの周囲を回りながら、子犬が降りようとするたびに止めてください。そうするうちに、子犬はどこが境界線であるかを理解するようになります。また、子犬にベッドから降りてもよいことを知らせるコマンドも必要です。「OK」のような簡単な解放コマンドが最適です。



写真 4: 20 フィートのロープを使って「こちらへおいで！」の練習をしているところ。



写真 5: 庭の向こうにいる別の子犬を見つけるが、そちらへ行かずそばに留まることを選んでいるところ。

ベッドから離れないように教える

子犬が喜んであなたの近くでベッドに留まるようになったら、あなたがその場を離れてもベッドに留まることを教える時期です。まず、子犬を紐でつなぎ、あなたを追いかけてきたときに紐が止めてくれるようにします。ただし、ベッドに紐を結びつけるのは避けてください。ベッドを床の上で引きずってしまうのを防ぐためです（写真 8）。

子犬がベッドから降りた場合は、「ダメ」と静かに伝え、子犬のところに行き、再びベッドに戻しながら「ブレイス」というコマンドを繰り返します。大声で怒鳴る必要はありません。静かな「ダメ」で十分です。すぐに子犬は、紐で止められるよりもベッドの方が快適だと気づくでしょう。

ベッドに留まる時間を無理に長くしないように注意してください。最初は短い時間から始め、ベッドで休んでいる間に遊ぶおもちゃや骨を与えてください。やがて、食事中に子犬をベッドに留まらせることもできるようになるでしょう。

難しい時期のためのヒント

3～5 か月の子犬は多くのコマンドを学ぶ能力がありますが、まだ子犬であり、そのやんちゃな行動に悩まされることもあるでしょう。非常に活発な子犬は、家の中を走り回ったり、家具に飛び乗ったりして混乱を引き起こすことがあります。子犬を捕まえようとするのが頻繁にある場合は、家の中でリードを引きずらせるようにしてください。そうすれば、捕まえるのが簡単になります。リードを噛むのが心配な場合は、ロープを使用してください。安価で、もし噛み切られても新しいものに取り替えることができます。子犬は人間の子どものように成長段階を経ます。この年齢では、恐怖心が強くなる時期を迎えることも珍しくありません。もし子犬が臆病になったり引っ込み思案になった場合は、落ち着いた態度を保ちましょう。子犬が怖がる物に自信を持って近づきます。子犬をなだめるのは避けてください。そうすると臆病な行動を褒められたと勘違いします。代わりに「それくらい乗り越えられるはず」という態度で接してください。

ハウストレーニングと破壊行動の防止

この時期、子犬はトイレトレーニングが完了することが一般的です。しかし、まだ油断は禁物です。家の中で粗相をしなくなっても、他の形で破壊的な行動を取る可能性は十分にあります。あなたが家を空ける際には、引き続きクレートやペンを使用して子犬を制限してください。

最近、私たち夫婦はラブラドル・レトリバーの子犬を育てました。その子が6か月の誕生日を迎える少し前に、夜間に自由に寝ることを許可し始めました。その子は自分のベッドに慣れており、夜は寝室で一緒に過ごすことを喜んでいました。しかし、私たちが家を空ける間に家の中で自由にさせるのを信頼できるようになったのは、1歳を過ぎてからでした。家具を噛まれたり、雑誌を引き裂かれたりして帰宅するのを防ぐために、それまでは慎重に対応していました。

子犬が成長するにつれて、前足をテーブルやカウンターの上にさせるようになることがあります。その際は「オフ」と指示を出し、従わない場合は子犬の後ろ足に軽く触れてみてください。足が捕まったように感じると、自然と飛び降りるでしょう。

この時期、運動させるために子犬を庭に一人で出す誘惑に駆られることがあるかもしれません。一人でいるのに飽きると、家に入れてもらおうとドアのところで吠え始めることがあります。この行動に注意して対応しましょう。庭にいてほしいときに、ドアのところで延々と吠え続ける子犬は非常に困ります。代わりに、こちらのタイミングで家に入れるようにしましょう。時には吠える前に入れば、時には少し吠えてから静かになった後に入れるようにしてください。



写真 6: リードを正しく持っていますが、ベッドから降りることを容易くするために、もう少しリードを緩める必要があります。ベッドは PVC フレームと掃除が簡単な軽量スリングで作られている。



写真 7: 犬がベッドから降りたので、リードを使って止めています。



写真 8: ロープがフェンスに結ばれており、ベッドから降りることができないかもしれないものの、降りた際に、遠くに行きすぎる前にロープで犬を止めます。その後、戻ってきて、再びベッドに戻すことができます。

子犬に物を投げて取ってこさせる遊びは、運動させるだけでなく、エネルギーが有り余っているときに疲れさせるのにも効果的です。物を持って帰ってこない場合や、追いかけてこをしようとする場合は、長いロープを引きずらせながら遊んでみてください。来ない場合や、逃げようとする場合は、ロープを拾い上げ、「来い」と指示し、ロープを軽く引っ張ります。たとえ物を持たずに来たとしても、来たことを褒めてあげてください。もし子犬が物を持って来てくれるようになったら、到着した途端に物を奪おうとしないでください。数秒間持たせてあげて、「来たね!」と褒めてあげましょう。その後、優しく取り上げて再び投げてあげてください。こうすることで、近づいても遊びが終わらないし、大切な物を奪おうとしているわけではないと理解できるようになります。

写真撮影に協力してくれたキャット・ベリーさん、そして「シンダ」と「ロビン」を貸してくださったジャニーとマーティ・フイオリートさんに感謝いたします。